学　界　消　息

1. 地方理事に藤田氏，堀内氏

第10期関東地区地方理事に藤田兼吉氏，堀内剛二氏が選出された（詳しくは326頁）

2. 鍋島泰夫氏アメリカ合衆国に留学

本学会会員の鍋島泰夫氏（気象庁予報課）は昭和33年度科学技術振興のための在外研究員として，「数値予報ならびに電子計算機 IBM 704 の調査研究」のため9月20日から6カ月間米国のワシントンに留学する．

3. 大久保明氏アメリカ合衆国に留学

気象庁海洋課の大久保明氏は昭和33年度原子力関係海外派遣留学生として，9月20日から1年間，米国のジョンズ・ホプキンス大学付属海洋研究所で，「放射能物質の海洋投棄の問題」を研究するため留学する．

4. アメリカ気象学会東京支部設立準備中

在京のアメリカ気象学会員の間に同学会支部を東京に作りたい意向があり，それについての日本気象学会の意向を和達気象庁長官を通じて間接的に聞かれたこともあった．その当時は，本理事会としては，それはアメリカ気象学会会員の問題であるから，日本気象学会としては，結構なことと思う，と返事したが，後，畠山久尚氏に幹事のマローン（T. F. Malone）氏から書簡があり，9月9日の常任理事会における議題となった．その結果，日米の学術交流のために，賛意を表する書簡をあらためて畠山理事長からマローン氏に送った．現在，東京大学の正野氏，気象研究所の小平氏，日本航空の横関氏が加わり，東京支部設立に関する準備をしているので，近く公表されるものと思われる．

5. 台風21号，22号上陸

9月には台風21号（Helen）および22号（Ida）が本土に上陸した．21号は8日にカロリン群島のウルシー島付近で発生，北西ないし西北西に進み，沖縄の南方海上で最も発達した．暴風半径は100km，中心付近の最大風速は40～60m/sec，中心示度は920mbであったが，後衰弱しながら本土に接近，18日早朝，相模湾から神奈川県に上陸，10時ごろ鹿島灘にぬけ，18日夜半オホーツク海に入った．被害は主に洪水によるもので，死者25名，行方不明47名，床上浸水8,934戸を出した．また船舶の沈没，流失56隻．

台風22号は20日にマリアナ付近に発生，はじめは西進し，22日午後から北上しはじめるとともに急速に発達し，最低気圧877mb，最大風速70m/sec，風速25m/sec以上の暴風半径は400～500kmという戦後最大の台風となった．気象庁開設以来の記録的大雨（392.5mm/日）を降らし，伊豆では狩野川を決壊し，関東平野の河川に洪水をおこした．死者340名，行方不明984名，床上浸水379,174戸，沈没，流失船舶73隻，という大被害を出した．

6. 外国文献委員会発足

10月7日の本学会常任理事会は，気象学研究の便をはかって，外国文献の主要なものを筆者，発行者の許可を受けた上，原文のまま，項目別にまとめて複写印刷し，廉価で会員に配布することを計画した．このために，外国文献委員会が発足した．なお担当理事は正野重方氏，委員には伊東彊自理事，吉武素二理事，桜庭信一氏が当ることになった．会員諸賢の御協力をお願いする．